夕刊　<第三種郵便物認可>

早くよくなれ 明美ちゃん

鈴木厚相がお見舞い

心臓病の追放を約束

「だいじょうぶ、早くよくなるよ」と明美ちゃんを見舞う鈴木厚相（右）明美ちゃんのうしろは榊原博士＝東京女子医大病院で

「明美ちゃん、早くよくなるんだよ」鈴木善幸厚相のことばに明美ちゃんは白い歯をみせてニッコリした。鈴木厚相は心臓病のこどもの実態をみるため、十七日あさ、東京女子医大の心臓血圧研究所を視察したが、入院中の鹿児島の少女、伊藤知明美ちゃんらをはげましたあと「こどもの心臓病を救うため全力を尽くす」と約束した。

鈴木厚相の視察は「明美ちゃん基金」の設立、「心臓病のこどもを守る会」の運動などでこどもを心臓病から救えという世論が全国的に盛り上がってきたのがきっかけ。心臓病のこども数について学者の意見はまちまちで全国に二万人ないし六万人いるといわれているが、費用が高いのと施設の不足で手術や療養を受けられる人は(くわずか。このため、手術すればなおるとわかりながら衰弱して死んでゆくこどもが多い。

厚生省では心臓病の医療を補助する育成医療制度を三十九年度からはじめたが、件数も一人あたりの補助額も少なく実情に合わなかった。この間心臓病でこどもをなくした親たちの団体などが予算の増額運動をつづけ、さらにサンケイ新聞が家庭が貧しいため手術も受けられず、死を待つだけとなっていた明美ちゃんをとりあげ全国に報じたことから、急速に世論が高まった。これにこたえ、厚生省でも来年度から育成医療の予算を八倍に増加することをきめ、大臣に要求、さらにこの日の実情視察となったもの。

鈴木厚相は、この日、午前十時同研究所を訪れ、榊原仟教授、新井達太助教授から説明をきき、手術室や病室を視察したあと小児病棟に入院中のこどもたち約五十人をみまった。鈴木厚相は明美ちゃんを見つけると「元気そうだね。おりこうにしてはやくよくなるんだよ」と頭をなでた。明美ちゃんは、はにかんで下を向いていたが、やがてニッコリしてうなずいた。

明美ちゃんは心室中隔欠損で二十一日手術を受けるが、榊原教授は「入院したときは肺炎を併発して危険だった。入院後よくなってきた。手術では最善をつくしてみます」といっている。

鈴木厚相は視察のあと記者会見をし「明美ちゃん基金など、民間の世論の盛り上がりにこたえ、厚生省でも、こどもの心臓病退治のため全力をあげることにした。育成医療の予算もおやし、育成医療を受ける手続きもかんたんにして多くの人が利用できるようにしたい」とのべた。